

## 子育て支援カード事業について



公明党  
青木 健 議員



**質問** 子育て家庭の経済的支援と市内小売業等の活性化の目的で「ふっさ子育てまるとくカード」が発行されているが、目的達成には新たな展開が必要。子育て世代ではインターネットやスマートフォンの活用が進んでおり、SNSで事業者等の情報を発信してもらうことで宣伝効果

が期待できる。カードの電子化や対象年齢の拡充、多子・多胎世帯へのサービスの上乗せ、SNS活用の見直し等により、利用者の利便性向上や協賛事業者の増加、地域活性化につながると考えるが、所見を伺う。

**市長** 事業開始から10年以上が経過し、この間スマートフォンやSNS

Sの普及などの社会環境の変化があり、ご利用いただいている子育て世代が、20代から40代が中心であることを考えると、カードの電子化やSNSの活用は大変有効な手段と考える。また、協賛店がわずかに減少傾向にあることから、今後、時代背景に合わせた事業展開を模索していく。



▲ふっさ子育てまるとくカード

## 歩道のバリアフリーについて



正和会  
串田 金八 議員



**質問** 第4期福生市バリアフリー推進計画における道路分野について、計画を通して市のバリアフリーへの考え方を伺う。

**市長** 計画の基本理念では「市民が互いに尊重し、ルールやマナーを守りながら、自由に行動し、かつ、活動できるまち」と掲げており、誰

もが利用しやすく、市内のどこへでも自由に移動できるような道路づくりを進めるとしている。その主要施策として、歩行者、車椅子利用者の視点に立った道路づくりを掲げ、歩道確保が可能な道路は東京都福祉のまちづくり条例の整備基準に基づき、高齢者や障害者の方が支障なく利用

できる歩道とし、また段差がある場合でも可能な限り平坦に、全ての歩行者が安心して利用できる歩道にしている。用地等の制約で歩道の設置が難しい生活道路などは、歩車共存道路として車両のスピード抑制や歩行者通行空間の明示など、歩行者を優先した道路整備を推進している。



▲すでにバリアフリー化されている市内の道路

## 多子世帯に向けた施策について



立憲民主党  
市川 佳樹 議員



**質問** 本市は「子育てしやすい街ランキング」で上位に入るが、子どもがたくさんいる家庭では普段から子育てにお金がかかり、コロナ禍が追い打ちをかけ苦しい経済状況にある。多子世帯への施策を伺う。

**市長** 経済的な支援は、国や自治体が子どもの数に応じ多角的に取り

組んでおり、児童手当やひとり親家庭等への児童扶養手当、都の児童育成手当も多子世帯へ加算が図られている。保育料や学童クラブ育成料にも多子世帯の減免措置がある。また、保育所等に入所希望の際にも、兄弟がいる場合や多胎児については、優先利用できるよう、市として独自に

対策している。市では、新型コロナウイルス感染拡大に伴う子育て世帯等臨時特別支援事業において、いち早く1人当たり10万円の現金給付を決定するなど、お子様の数に応じ支援ができたと考える。今後も「子育てするならふっさ」のスローガンのもと、多子世帯の支援を推進したい。



## 18歳成年年齢引下げに伴う取組について



正和会  
小林 貢 議員



**質問** 成年年齢の引下げで、若年者の消費者被害が拡大する危険がある。トラブル防止の取組みを伺う。

**市長** 市では東京都の交付金を活用し、消費者被害を疑似体験できるVR動画「消費者トラブルにSTOP」を作成。若者が陥りやすい事例の紹介や消費者相談室を案内し、啓

発を図っている。

### 交通安全対策について

**質問** 市内の市道等の白線には、消えかけのものや消えたものがある。また、ガードポールやガードレール等も積極的に設置してほしいが、設置及び管理状況、今後の計画を伺う。

**市長** 市内の生活道路等の白線は、

令和3年度に約6キロメートルを塗り替え、毎年予算の範囲で計画的に維持管理している。ガードポール等は、ドライバーに対して歩行者への注意を促す効果もあると考える。通学路点検の要望も参考にしながら、必要に応じて設置するなど、引き続き歩行者等の安全対策に努めたい。



▲歩道に設置されているガードポール

## 高校3年生までの医療費助成について



公明党  
堀 雄一朗 議員



**質問** 東京都は2023年度の開始を目指し、医療費助成の対象を高校3年生まで拡充する方針を発表したが、本市の所見を伺う。

**市長** 都ホームページや報道等から都は実施するとの認識であるが、正式な通知が来ておらず、市としての判断は今後になる。子育て世帯に

は大変重要な支援で、都の財政的支援が決定した際は積極的に取り組む。

### 高齢者等の移動支援について

**質問** 現在、高齢者の新型コロナワクチン集団接種会場へのタクシー利用助成事業を実施しているが、その実施状況や分析を伺う。

**市長** 65歳以上の高齢者を対象に、

令和3年5月から開始し、片道を1件として1月末現在4166件、463万7900円を助成している。福祉バスの運行がない時間帯や日曜日が接種日の方、接種予約時間と運行時間が合わない方、外出が困難な方や他者との接触を極力避けたい方などが利用されたと考えている。



## 福祉行政について



正和会  
小澤 芳輝 議員



**質問** コロナ禍における高齢者のフレイル対策等について伺う。

**市長** 感染症が流行し始めた令和元年度後半から2年度の前半は、介護予防教室が全て中止となり、自粛期間の長期化で認知機能やフレイルへの相談が増加した。そのため、自宅でフレイル予防に取り組めるよう、

介護予防DVDの配布、ふくふく福生体操のテレビ放映などを実施。令和2年の秋頃からは、感染対策を徹底して予防教室も再開した。また、予防の鍵となる外出や交流の機会として、地域の集いや介護予防リーダーによる公園体操なども実施している。

**質問** フレイルや認知症予防とし

ての高齢者へのパソコン、スマートフォン等の研修について伺う。

**福祉保健部長** 令和3年11月には都の事業を利用した高齢者スマホ教室を4回実施したほか、公民館事業や地域包括支援センター熊川でも講座を実施している。今後も、デジタルデバインド対策を推進していく。



▲フレイル予防のための「ふくふく福生体操」